

稲作防除特報

(中生 晩生版)

令和 6 年 7 月 1 6 日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

～斑点米カメムシ類に注意し、被害防止に努めましょう～

みな穂農協管内の雑草地(20か所)で、すくい取り調査したところ、斑点米の要因となるカメムシ類の発生は過去 10 年で最も多くなっています。

収量や品質低下につながる斑点米カメムシ類や紋枯病、いもち病などの基本防除を徹底し、被害の発生防止を図りましょう。

「コシヒカリ」「ミルキーQueen」など中生品種 及び「てんこもり」など晩生品種の基本防除 (10a 当たり散布量)

		1 回目 (走り穂)	2 回目 (穂揃期)
防除時期	中生	7月31日(水)～8月2日(金)	8月8日(木)～8月10日(土)
	晩生	8月3日(土)～8月5日(月)	8月11日(日)～8月13日(火)
粉剤体系		ブラントレバリダ粉剤 DL (いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類) 4kg	ラブサイドキラップ粉剤 DL※ (いもち病、カメムシ類、ウンカ類) 4kg
液剤体系	乗用管理機等	スタークル液剤 10+モンカットフロアブル (紋枯病、カメムシ類、ウンカ類) 1,000 倍 /100ℓ (薬量 100 ml/10a + 薬量 100 ml/10a)	ラブサイド K2フロアブル※ (いもち病、カメムシ類) 1,000 倍 /100ℓ (薬量 100 ml/10a)
	ドローン	スタークル液剤 10+モンカットフロアブル (紋枯病、カメムシ類、ウンカ類) 8 倍/0.8ℓ (薬量 100 ml/10a + 薬量 100 ml/10a)	ラブサイド K2フロアブル※ (いもち病、カメムシ類) 8 倍/0.8ℓ (薬量 100 ml/10a)

※収穫 14 日前まで

※防除効果を高めるため、散布の間隔は 1 週間を目安(10 日以上あけない)としましょう。

また、防除の際は、畦畔を含む水田全体に薬剤がかかるように散布しましょう。

※無人ヘリコプターの散布予定時期は、折込みチラシなどで別途ご案内します。

○薬剤散布時の留意点

- ・1回目の防除は、落水し、株元に薬剤がかかるように散布しましょう。
- ・使用基準を厳守し、周辺作物への農薬飛散防止に努めましょう。
また、露のあるときや稲の開花中の散布は避けてください。
- ・ほ場ごとに出穂の状況に合わせて散布してください。

◎熱中症を予防しよう!

- ・作業はできるだけ複数で行い、時間を決めて体調確認を行いましょ。

帽子や空調服などの活用



こまめな水分・塩分補給

